

勸化本書誌解題(四)

——文芸資料研究所所蔵本——

渡邊守邦
土屋順子

はじめに

実践女子大学文芸資料研究所の所蔵する勸化本五作について報告する。表題の「勸化本書誌解題(四)」とは、凡例に記した土屋順子稿に続くの謂である。

凡例

- | | |
|-------------------------------|--|
| 一 原則として初版本の刊行順に配列した。 | 一 各項目丁数、「」を用いて丁付を記した。丁の表で終っている場合は〈表〉と表記した。 |
| 一 表記は、原則として旧字は現在通行の漢字に改めた。 | 一 「題簽」は一之巻を原則としてとった。 |
| 一 ルビは原文に従って忠実に施した。 | 一 「本文匡郭」は原則として一之巻本文一丁オを計測した。 |
| 一 欠落・虫損等で判読不可能の文字は「＊」で補った。 | 一 「挿絵」は丁数および表裏を付記した。 |
| 一 「構成」の項では各巻毎に合計丁数を示し、() 内に、 | 一 「蔵書印」の捺印箇所は、丁付のある場合はその丁付を、無い場合は「初丁」「最終丁」という形で表記した。 |

一 「備考」に参考論文、翻刻を掲載した。

なお、「備考」に記した「解題（一）」とは、土屋順子「勸化本書誌解題（一）―国立国会図書館所蔵本―」（『実践国文学』第46号、平成6年10月）、「解題（二）」とは、同「勸化本書誌解題（二）」（『実践国文学』第48号、平成7年10月）、「解題（三）」とは、同「勸化本書誌解題（三）」（『実践国文学』第49号、平成8年3月）のことである。

役行者靈驗記

書型 大本二卷二冊。

表紙 縹色無地。縦二六・五糎×横十八・四糎。

題簽 上巻は欠落。下巻は後補墨筆題簽で、「役行者靈驗記下」。

縦十七・四糎×横三・二糎。

序題 「役行者靈驗記叙」。

目録題 「役行者靈驗記巻上」。（エシノギヤウシヤレイゲンキ）下巻の目録題は無く、「下巻」とだけある。

巻首題 「役小角靈驗記巻下」。上巻は無し。

尾題 「役小角靈驗記巻上（下）終」。

版心 「○行者靈驗記巻上（下）（丁数）菅生堂」。（菅生堂）の字は黒口の中にあつて白ヌキ）。

序文 「岬／享保六年辛丑年正月布瀝星日／河南九華山六隠乞土蓮体書」。

構成 上巻三十二丁（序一丁「一」、目録三丁「一」「二」「三」、本文二十八丁「一」「二」「三」「四」「五」「六」「七」「八」「九」「十」「十一」「十二」「十三」「十四」「十五」「十六」「十七」「十八」「十九」「二十」「二十一」「二十二」「二十三」「二十四」「二十五」「二十六」「二十七」「二十八」「二十九」「三十」「三十一」「三十二」）。

下巻三十三丁半（本文三十三丁「一」「二」「三」「四」「五」「六」「七」「八」「九」「十」「十一」「十二」「十三」「十四」「十五」「十六」「十七」「十八」「十九」「二十」「二十一」「二十二」「二十三」「二十四」「二十五」「二十六」「二十七」「二十八」「二十九」「三十」「三十一」「三十二」「三十三」）。

本文 四周単辺。縦十八・七糎×横十四・三糎。

用字 一面行數 序九行、本文十行。

挿作 漢字交じり片仮名 ルビあり。

刊記 漢字交じり片仮名 ルビあり。

備考 兵衛監司（裏見返し）。

該本が初版か。国立国会図書館蔵本も同版（「解題（一）」に書誌を載せた）。『国書総目録』では、享保六年版として静嘉堂文庫蔵本、大谷大学図書館蔵本をあげているが、静嘉堂文庫蔵本は刊記を「寛保三歲亥七月吉旦／京六角通御幸町西江入町／書林／岡権兵衛」とし、後版。また静嘉堂文庫蔵本、大谷大学蔵本は、版心部「菅生堂」の文字が削除されていて、初版とは考えにくい（その他は未見）。書名の如く役行者に関する靈

験を類聚したもので、上巻は一話から二十三話、下巻は二十四話から四十三話を収録する。序文には「此載苦行ノ者少カラズ。皆其ノ本ヲ忘レテ枝葉ヲ攀。故ニ今一リノ近士ノ需ニ依テ行者ノ靈驗ヲ輯メ。兼テ邪正ヲ弁シテ。時俗ノ迷ヲ解ントス。而モ強テ抑止セズ。且ツ神明ノ徳ヲ讃スルコトハ。予モ亦時ニ違ハズ俗ニ背カザレバナリ」と、成立の事情を記す。

上巻

- 「役行者生緣氏族ノ事」、
「摂州箕面寺ノ縁起行者龍樹ノ浄土ニ神遊ノ事」、
「行者前生所持ノ劍杵感得ノ事」、
「行者鬼神ヲ驅使シ大峯葛城ノ間ニ石橋ヲ架シムル事附タリ一言主神行者ヲ譏スル事」、
「行者ヲ伊豆大嶋ニ配流ス並富士山修行ノ事」、
「行者一言主ノ神ヲ呪縛シ玉フ事」、
「行者大唐国ニ飛去リ玉フ事」、
「道昭律師新羅国ニ於テ行者ニ相見ノ事」、
「行者三国修行金峯山蔵王権現出現ノ事」、
「大峯ハ本天竺国ノ山ナル事」、
「日本ハ密教相応ノ国ナル事」、
「道昭入唐異説ノ事」、

「弘法大師役行者同一体ノ説附タリ大師御影ノ讃ノ事」、

「金剛蔵王菩薩本説ノ事」、

「天竺飛來峯ノ事」、

「金剛山法起菩薩浄土ノ事」、

「葛城ノ神異説並ニ泰澄和尚呪驗ノ事」、

「大峯葛城ニ女人ヲ禁ズル事並持呪ノ法軌」、

「金峯山日蔵上人蔵王ノ教ニ依テ天満天神ノ住城ニ至リ並ニ天堂地獄ヲ見玉フ事」、

「役行者優婆塞形ノ事」、

「聖宝尊師再ビ大峯ノ路ヲ開キ玉フ事」、

「弘法大師役行者蘭契ノ事」、

「大峯鐘掛ノ由來」、

下巻

「河内觀心寺役行者靈驗ノ事」、

「行者ハ悉地成就ノ持明仙人ナル事附タリ日本古今諸仙ノ事」、

「役行者ノ眷属前鬼後鬼ノ事」、

付録

「天狗ノ弁」、

「天狗ノ形貌本説附タリ神社考妄説ノ事」、

「天狗ノ通名別名住所ノ事」、

「愛宕山太郎坊神社考矛盾ノ説ノ事」、

「愛宕山大権現出現ノ本説」
 「愛宕山権現託宣ノ事」
 「金峯山権現託宣ノ事並四神ノ御歌ノ事」
 「古来天狗ノ事ヲ記セル書ノ事」
 「戒急乘緩ノ四句分別ノ事」
 「天狗人ニ印真言ヲ教ヘシ事」
 「天狗ニ攪レン人ノ事」
 「唐ノ天狗日本ニ渡リ恥カキシ事」
 「百鬼夜行一条棧敷鬼ノ事」
 「稲荷明神出現ノ本説大福神ナル事」
 「稲荷明神ハ東寺ノ鎮守ナル事」
 「夷三郎出現ノ本説釣ヲ垂シ玉ヲ形像並大福神ナル事」
 「此書撰集ノ徴志。伊勢ヤ日向ノ物語ノ事」

如上の通りで、上巻は全編役行者に関する靈驗譚であるのに対し、下巻は役行者三話、天狗の説話、諸国に伝わる奇瑞・靈驗譚をまじえる。作者蓮体についての研究は、「解題(一)」「収録の『秘密安心往生要集』」「備考」参照。また勸化本と蓮体について、後小路薫氏「教化の旅と説話―蓮盛と蓮体の行脚―」(『国文学解釈と鑑賞』第55巻第3号、平成2年3月)がある。

小夜中山靈鐘記

書型	表紙	題簽	見返し	序題	巻首題	尾題	版心	序文	構成
大本五巻五冊。	縹色布目型押文様。	縦二十六・三厘×横十七・四厘。	後補墨筆題簽。左肩「小夜中山靈鐘記二(五)」。	一之巻は外題のみで、巻数は無し。	縦十六・二厘×横三厘。	各巻共、墨筆で「五巻之内前田氏」とある。	「小夜中山靈鐘記序」。	「小夜中山靈鐘記卷之一(五)終」。三之巻は尾題は無く、「巻之三終」とだけある。五之巻のみ「大尾」と付く。	「黒魚尾」靈鐘記卷之二(五)〇(丁数)。 「延享四丁卯霜月仏歡喜日／東都量山沙門欣譽自序」。
							一之巻二十一丁半(序二丁「一」「二」、本文十九丁半「一」「二」…「二十」表)。		
							二之巻十七丁半(本文十七丁半「一」「二」…「十八」表)。		
							三之巻十八丁半(本文十八丁半「一」「二」…「十九」表)。		

四之卷二十一丁半（本文二十一丁半「二」：「廿二」表）。

五之卷二十二丁（本文二十一丁半「一」「二」：「廿二」表、刊記半丁「廿二」裏）。

四周單辺。縦二十・〇糎×横十五・〇糎。

本文匡郭

一行、本文九行。

用字

序 漢字交じり片仮名 ルビ無し。
本文 漢字交じり片仮名 ルビあり。

挿絵

無し。
盤察著。欣賞補。

作者

刊記 「寛延元戊辰年八月吉旦／皇都書林／京寺町五

廣告

条上町／藤屋武兵衛」（五之卷「廿二」裏）。
刊記の右側に「一道成寺靈蹤記 鐘ノ来由并三

国鐘ノ始リ／同功德因縁ヲ記ス全部六冊／右出

蔵書印

備考 「前田蔵書」朱印（各巻の見返し・初丁・最終丁）。
二之巻裏表紙に、墨筆で「鶴ヶ岡烏井川原縁田

丁／三十番地居住／土族前田＊＊」とある。

大妻女子大学図書館蔵本と東京大学附属図書館

蔵本の刊記は「寛延元戊辰年八月吉旦／皇都書

林／京二条通油小路東入町／田中甚兵衛」で、

『道成寺靈蹤記』の広告は無。大谷大学 図書

館蔵本は写本。東北大狩野文庫本、岩瀬市立図

書館蔵本は未見。

本書は、『享保以後大阪出版書籍目録』、『割印帳』には、記載されていない。

序文は「董蒙ノ資助ナラント。言ヲ俗談ニ同フ

シ。功ヲ真諦ニ誘ント。往昔諺話ト表シ。中山

靈鐘記ト題ス。不文ヲ恐慮スルニアラズ。取捨

宜ニ随ハンノミ云爾。」とあって、該本に欠く原

題簽には、「往昔諺話」の角書がある。

長編説話。小夜中山の無間の鐘の建立を中心に、

夜泣石・鈴の餅等の説話を挿入して長編化して

いる。曲亭馬琴の読本『石言遺響』（文化二年刊）

は、その大筋を本書に依拠している。両者の関

係については、後藤丹治氏「太平記と馬琴の作品

の関係」（『太平記の研究』、昭和13年）、大高洋

司氏「『石言遺響』論」（『国語と国文学』、昭和

53年11月）、徳田武氏『^{複製}石言遺響』解題（『馬

琴中編読本集成』1、平成7年4月）に詳しい。

内田保広氏「小夜中山靈鐘記」（大久保正編『国

文学未翻刻資料集』、昭和56年5月）に翻刻解題

が備わる。

阿弥陀経依正譚

書 型 大本六卷六冊。

表紙	題簽	序題	目錄題	卷首題	尾題	版心	序文	構成
黃土色布目型押文様。 縦二十七・一樞×横十七・九樞。 縦二十七・一樞×横十七・九樞。	單粹左肩「阿弥陀經依正譚二(一〇六)」。一之卷は欠落。縦十八・五樞×横三・五樞(二之卷)。 「阿弥陀經依正譚序」。	「阿弥陀經依正譚卷一(一〇六)目次」。 「仏説阿弥陀經依正譚卷一(一〇六)」。	「阿弥陀經依正譚卷一(一〇五)終」。「仏説阿弥陀經依正譚卷六大尾」。	「依正譚卷一(一〇六)(丁数)」。 「明和辛卯之春／尾陽海東順正寺／釈惠階謹序／印」。	一之卷三十丁半(扉一丁、序二丁「一」「二」、目錄一丁「ナシ」、本文二十六丁半「一」「二」…「二十七」表)。 ※扉の裏の丁は、三分割して、中央に「阿弥陀經依正譚」、右側に「粟津義圭述」、左側に「平安書坊 英花堂／菊秀軒／粹行(両者の間)」と刻す。	二之卷二十八丁半(目錄一丁「一」、本文二十七丁半「一」「二」…「二十九」表)。 三之卷三十丁半(目錄一丁「一」、本文二十九丁「二」「三」…「三十」、刊記半丁(裏見返し))。 四之卷三十七丁(目錄一丁「ナシ」、本文三十六丁「一」「二」…「三十六」)。	刊記② 「明和九年壬辰／三月吉旦／堀川仏光寺下ル丁河南四郎右衛門／同 河南四郎兵衛／堀川通蛸薬師下ル丁 西村市郎右衛門／醒井通魚棚上ル丁 丁子屋庄兵衛／寺町通松原下ル丁 菊屋喜兵衛」(六之卷「三十五終」表)。 刊記①(三之卷裏見返し)の直前に、「阿弥陀經依正譚全部六冊／内三冊出来／残三冊追付出来」と予告がある。	蔵書印 「羽前／田川郡／鈴木／鶴岡」円形朱印(各卷
五之卷二十九丁(目錄一丁「一」、本文二十八丁「一」「二」…「二十八」)。 六之卷三十五丁半(目錄一丁「ナシ」、本文三十四丁半「一」「二」…「三十五終」表)。 四周単辺。縦二十一樞×横十四・七樞。 序七行、本文十行。 漢文。 本文 漢字交じり片仮名 ルビあり。 無し。	本文匡郭 一面的行数 用字 挿絵 作者 刊記① 「粟津義圭述」(各卷卷首題下)。 「明和八年辛卯／六月吉旦／堀川通蛸薬師下ル丁 西村市良右衛門／堀川仏光寺下ル丁 河南四良右衛門／同町 河南四良兵衛／寺町松原下ル丁 菊屋喜兵衛／醒井通魚棚下ル丁 丁子屋庄兵衛」(三之卷裏見返し)。 「明和九年壬辰／三月吉旦／堀川仏光寺下ル丁河南四郎右衛門／同 河南四郎兵衛／堀川通蛸薬師下ル丁 西村市郎右衛門／醒井通魚棚上ル丁 丁子屋庄兵衛／寺町通松原下ル丁 菊屋喜兵衛」(六之卷「三十五終」表)。 刊記①(三之卷裏見返し)の直前に、「阿弥陀經依正譚全部六冊／内三冊出来／残三冊追付出来」と予告がある。	蔵書印 「羽前／田川郡／鈴木／鶴岡」円形朱印(各卷						

備 考
初丁右上)。円形黒印(各巻初丁右下)。
朱筆で傍点の書入れがある。

一〇三之巻が明和八年、四〇六之巻が明和九年の刊行であるが、『享保以後大阪出版書籍目録』、『割印帳』には記載が無い。

文字通り「阿弥陀経」を一節ずつ取り上げながら、種々の譬喩・因縁をもって教義を説明する。目次中には利用した譬喩・因縁を列挙してある。作者義圭については、後小路薫氏「義圭著述考」(「文芸論叢」21号、昭和58年9月)に、本書を含む著作三十作とともにある。

四十八願得聞鈔

書 型 半紙本四巻四冊。
紙 縹色。蓮花の型押文様。
題 籤 縦二十二・四厘×横十五・八厘。
子持杵左肩「四十八願得聞鈔二(〇四)」。一之巻は欠落。縦十六・二厘×横二・六厘。
序 題 「四十八願得聞鈔序」。
巻 首 題 「四十八願得聞鈔卷一(〇四)」。二之巻は「四十八願得聞鈔二巻」。
尾 題 「四十八願得聞鈔卷一(〇四)終」。二之巻は「四

版 心 序 文
十八願得聞鈔二巻終」。
「黒魚尾」四十八願得聞鈔一(〇四)(丁数)。
「このとし弘化乙巳初冬水曜直日大行明願の寺主曇藏信曉七十二歳にして筆を正定閣中に肇云爾」。

構 成
一之巻五十二丁半(序二丁半「一」「二」「三」へ表、本文五十丁「一」「二」：「五十」)。

二之巻五十丁(本文五十丁「五十一」「五十二」：「百」)。

三之巻五十二丁半(本文五十二丁半「百一」「百二」：「百五十三」へ表)。

四之巻五十三丁(本文五十二丁「百五十四」「百五十五」：「二百五」、広告一丁「ナシ」)。

四周単辺。縦十七・九厘×横十三・二厘。

用 字 本文匡郭 一面行数 序五行、本文八行。

挿 絵 漢字交じり平仮名 ルビあり。
本文 漢字交じり平仮名 ルビあり。

作 者 無し。
刊 記 「正定閣筆記」(各巻巻首題下)。
「弘化二乙巳年十一月/渋谷山御藏版所/京室町通仏光寺下ル町/中島利左衛門/御弘通所/五条通柳馬場西へ入町/菱屋又兵衛」(四之巻裏見返し)とあるが、後の埋木。

告 告 「皇都書林文昌堂藏版目録/花屋西洞院へ入/

永田調兵衛版。
「憲」「明」朱印（各巻巻首題下）。
本文末に成立として「弘化二乙巳中冬廿九日」とある。

大正大学附属図書館蔵本は無刊記で、巻末には「皇都書林文昌堂藏版目錄／花屋西洞院西へ入／永田調兵衛」一丁半を有す（「解題（三）」参照）。京都大学附属図書館・龍谷大学各蔵本も存するが、現在のところ未見。
内容、参考文献についても、「解題（三）」参照。

大経五悪図会

書型 半紙本三巻三冊。
表紙 中標色。蓮花の型押文様。
題簽 縦二十二・三厘×横十五・五厘。
見返し 子持杵左肩「三世大経五悪図会上（中、下）」。
三分割して、中央に「三世大経五悪図会」、右側に「弘化戊申春開刻」、左側に「平かな絵入全三冊」と刻する。
序題 「大経五悪図会序」。
目録題 「大経五悪図会目錄」。

巻首題 「大経五悪図会卷之二」^{だいぎやうごあくわんのに}、「大経五悪図会卷三」。
尾題 「大経五悪図会卷一（一）終」。
版心 「黒魚尾」大経五悪図会卷之一（一）三、序、目錄（丁数）。
序文 「弘化四丁未季東奥法照山撰之」。
構成 一之巻五十三丁（序二丁「一」「二」、目錄二丁「三」「四」、本文四十九丁「五」「六」「一」「二」「四十七」）。

※目錄「三」「四」丁、本文「五」「六」丁まで、柱題下の巻数の部分が「目錄」で、本文「一」丁から「卷之一」と始まる。

二之巻三十六丁（本文三十六丁「一」「二」「三」「十六」）。
三之巻二十九丁（本文二十八丁半「一」「二」…「二十九」へ表、刊記半丁「二十九」へ裏）。
四周单边。縦十八厘×横十二・九厘。
本文 漢字交じり平仮名 ルビあり。
序 漢字交じり片仮名 ルビあり。
本文 漢字交じり片仮名 ルビあり。
一之巻『九相詩』部分（六ウ一オ・二オ・三オ・四オ・五オ・六オ・七オ・八オ・九オ）。
以上は九相詩の図九面。

見開き八面（十ウ十一オ・十四ウ十五オ・十六ウ十七オ・十八ウ十九オ）

・廿三ウ廿四オ・廿七ウ廿八オ・三十二ウ三十三オ・三十九ウ四十オ。

九ウ四十オ。

半丁 三面 (廿二ウ・四十四ウ・四十五

オ)。

二之巻見開き五面 (七ウ八オ・十五ウ十六オ・

二十五ウ二十六オ・二十九

ウ三十オ・三十四ウ三十五

オ)。

半丁 三面 (十一ウ・二十一オ・三十二

オ)。

三之巻見開き二面 (六ウ七オ・二十五ウ二十六

オ)。

半丁 四面 (三ウ・十七ウ・二十一オ・

二十八オ)。

照山撰。

作者 刊画 記①

「画工 八田華堂金彦圃」(三之巻二十九(裏)。

「湖東光闍寺藏版／弘化戊申春開刻／京都弘所
／三条通升屋町 出雲寺文治郎／五条通柳馬場
西へ入町 菱屋亦兵衛／五条通堺町東へ入町 菱
屋友七」(三之巻二十九(裏)。

刊記②

「京都書林／五条橋通高倉東入 沢田文栄堂／菱
屋友五郎」(裏見返し)。刊記の右側に「各宗書
籍製本売捌所／並説教書平かな絵入物品々」と

備考

ある。

国会図書館、東京大学附属図書館、大正大学附
属図書館の各蔵本は同一の版本であるが、刊記

②は「京都書林／五条橋通堺町西へ入町／沢田
文栄堂／菱屋友五郎」。該本は、裏見返しの刊

記②が「京都書林／五条橋通高倉東入 沢田文

栄堂／菱屋友五郎」に改められ、「各宗書籍製

本売捌所／並説教書平かな絵入物品々」が加え

られている。

一之巻本文「五」「六」「一」「二」：「九」の十一丁は

『九相詩』の図九面を引用している。

本書の内容は以下の通りで、それぞれに挿絵が

施されている。

上巻

厭離穢土九想之事

第一貪欲煩惱之事、附 第一水火之難、同 第

二風損之難、同 第三盜賊銀主之難、同

第四餓鬼道之苦果

第二真悲煩惱之事、附 修羅道之苦果

第三愚痴煩惱之事、附 第一父子之死哭、同

第二臨終火車相現、同 第三別離難会、同

第四冥土趣求

中巻

第一惡因業之事、附 閻羅王之苦果、同 別所

- 光明院、
 第二惡因業之事、附 地獄之苦果、
 第三惡因業之事、附 別所地獄苦相
 下の巻
 第四惡因業之事、附 別所地獄、
 第五惡因業之事、附 無間地獄之別所、同 五
 善之因行、同 極樂之証果

〈付記〉資料の閲覧を快諾してくださった国立国会図書館、
 大正大学附属図書館、大谷大学図書館、東京大学附属図書
 館、大妻女子大学図書館、実践女子大学図書館、龍谷大学
 図書館に感謝申し上げます。

役小角靈驗記卷下終
 リトイヘトモ社御座内奉難敷ニテ條理ナレ今ノ巻
 八精要ナルモノヲ擇ミ述作スルニ附録ノ怪説ヲ編テ正
 編ノ真粹ヲ撰ルトナレ行者ノ行季一十餘年ノ昔レ
 ナバ彷彿トシテ知りガタシ舊記ノ正レキ者ヲニ思
 テ師ハ後來ノ可畏哉其書提心勇怯ノ行ヲ學ビテ
 鬼ノ徒ト成シトラ恐レ大惡ヲ止小善ヲモ勤メ得テ
 小傳ナランマ

役小角靈驗記卷下終

河南九華山地藏寺藏版

享保六年辛丑蘭月吉辰

書肆 河内屋宇兵衛監司

大坂心齋橋通南久太郎町